

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害防除事業
事業費 2,702,676 円 (うち支援金: 2,700,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害量は依然として多く森林環境に悪影響を及ぼしていることから、森林の健全な育成と景観形成の保全のため、早急の対応を必要としている。

(2) 本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の補助対象外の松くい虫被害木駆除を行い、地域課題の解消と景観形成の整備を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 市内松林所有者

(3) 実施方法 松くい虫被害木駆除 (伐倒、薬剤処理等)

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

松くい虫被害木駆除 (伐倒、薬剤処理) 900 m³

②令和 4 年度実績

松くい虫被害木駆除 (伐倒、薬剤処理) 63.456 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

当年度内に被害木を処理することによって、次年度の被害拡大を防止できる。

(2) 継続性

松くい虫による被害が軽減されるよう継続して被害木駆除を行い、被害の拡大防止を図る。

(3) 普及性

地道に松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害が早期に終息へ向かうよう努める。

被害木駆除を実施することで、松くい虫被害対策のPRを地域住民に対し行うことができ、緑豊かで健全な森林を広めることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

森林づくり推進支援金で実施する被害木駆除では駆除残の処理を行うことができ、被害の拡大防止を図れている。

(2) 課題

市内に広く散在するその他松林において松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害の拡大に被害木処理が追いついていない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

既存の対策事業で賄えない駆除残の被害木処理を引き続き実施し、被害の拡大防止を図る。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費 4,215,149 円 (うち支援金 : 3,855,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中山間地域の高齢化の加速や森林利活用の減少により、里山周辺に人の手が入らなくなった荒廃森林等が増え、野生鳥獣の出没が頻発している。野生鳥獣との共生を図るためには、環境整備を実施し、森林育成等も講じるとともに、人と野生鳥獣の棲み分けを図っていくことが重要である。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

手入れの遅れている里山エリアで伐採等(緩衝帯)の森林整備を進めることにより、本市において増加している野生鳥獣による農業被害や人身被害を防止する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 市内一円

(2) 対象者 里山に隣接する地域等の住民

(3) 実施方法 市内の集落・農地周辺の森林、耕作放棄地(林地化した非農地)において間伐等の森林整備を行い緩衝帯として整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和元～令和 5 年度)

令和元年度 市内 20 箇所 3.47ha 令和 2 年度 市内 17 箇所 2.01ha

令和 3 年度 市内 8 箇所 4.40ha 令和 4 年度 市内 10 箇所 6.67ha

②令和 4 年度実績 市内 2 箇所 2.70ha



広瀬軍足地区



鬼無里新倉地区

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

集落周辺に存在する身近な里山を、緩衝帯機能を持った森林として間伐等の整備することにより、野生鳥獣の出没と被害を抑制する。また、地域住民の森林に対する関心を高めるとともに、維持管理作業を行いながら地域で取組む里山整備の推進に結びつけていく。

(2) 継続性

事業実施後の緩衝帯は、長野市緩衝帯維持管理支援事業補助金を活用するなど、地域住民の手により、緩衝帯機能の維持が図られている。緩衝帯整備による野生鳥獣に出没抑制効果を実感し、地域住民自らが森林整備を実施するなど効果が表れてきている。

(3) 普及性

緩衝帯整備を実施した地域だけでなく、周辺の地域でも野生鳥獣の出没や目撃が減少するなどの好影響が出てきている。周辺地域でも、緩衝帯整備に対する要望が増加してきており、事業効果に期待が寄せられている。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

野生鳥獣による農作物等の被害が発生している地域で、4.40haの緩衝帯整備を行い、農地及び集落周辺の里山環境整備によって、クマ及びイノシシ等野生鳥獣の出没件数が減り、農作物被害が減少している傾向にある。令和4年度も、電気柵との併用を推進しつつ、緩衝帯(里山)整備事業実施の地域要望に応えるべく事業を継続していく。

(2) 課題

里山環境整備により、事業実施地域での出没件数及び農作物被害は減少傾向にあるが、未整備地域では何ら変化はない。また、野生鳥獣の根本的な個体数調整も必要ではないかと考える。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

長野市

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	広葉樹林造成モデル事業
事業費 1,628,000 円 (うち支援金: 300,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を確立することで、森林所有者の主伐後の選択肢を増やす。

(2) 本事業の目的

天然更新した森林を育成天然林施業のモデル林として継続的に活用する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 門沢・上ヶ屋・田野口・小鍋モデル林 約 3.0ha

(2) 対象者 市内森林所有者

(3) 実施方法

- ・市営林を皆伐し、広葉樹林化へのモデル林を設置。
- ・研究機関と連携し、広葉樹林を造成するための調査研究を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 6 年度)

- ・モデル林 4 調査個所を設置し、皆伐後の保育や更新の継続した調査の実施

②令和 4 年度実績

- ・調査業務委託
 - －伐採前の、森林の状況調査や伐採方法の提案
 - －保育手法の検討、データ整理等



門沢調査区



小鍋調査区

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を確立することで、森林所有者の主伐後の選択肢を増やす。

(2) 継続性

天然更新した森林を育成天然林施業のモデル林として継続的に活用する。

(3) 普及性

市民参加型のイベントを通じ、事業のPRを行う。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和4年度も今後検討していくうえでの基礎的調査を行い、調査区内の木本類等の整理・特徴が正確に調査されていた。

(2) 課題

この先も引き続き調査を実施していくものであり、更新樹種選定まではしばらく時間がかかる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

更新判定を行う令和6年(2024年)まで調査を引き続き実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)